からだのための命の経験、成長、務め

（主日――午前の第二の部）

メッセージ　8

からだの中で犠牲の生活を送り、からだの成長のためにからだに命を供給する

聖書：ピリピ2:17．ローマ12:1．Ⅰヨハネ5:16前半．Ⅱコリント4:12．
エペソ4:13-16．コロサイ2:19

Ⅰ．からだの中で、わたしたちは犠牲の生活を送る必要があります――ローマ12:1：

Ａ．ぶどうの木は、犠牲のキリスト、すなわち、ご自身のすべてを犠牲にしたキリストを予表しています。キリストは彼の犠牲から新しいぶどう酒を生み出して、神と人を活気づけました――申8:8．士9:13．詩104:15前半：

１．キリストはぶどう酒を生み出す方であり、ご自身を犠牲にしてぶどう酒を生み出して、神と他の人を活気づけます。ぶどうの木として、キリストは神のための幸いと他の人のための幸いを生み出します――士9:13．詩104:15前半。

２．主の主権の下で、わたしたちは自分自身を犠牲にして他の人を幸いにする必要のある状況に置かれるかもしれません――ローマ12:1．エペソ5:2：

ａ．もし、そのような状況のただ中でわたしたちが主と接触するなら、わたしたちは主をぶどう酒を生み出すぶどうの木として、すなわち神と他の人に活気を与える方として経験するでしょう――ピリピ3:1前半。

ｂ．キリストをぶどうの木として経験した結果、わたしたちは彼の中で、彼と共に、彼を通してぶどうの木となり、神と人を活気づけるものを生み出します――士9:13。

３．もしわたしたちがぶどうの木によって予表されるキリストと接触し、彼の犠牲の命を経験するなら、彼はわたしたちを力づけて犠牲の生活を送らせ、わたしたちは他の人と主を幸いにするぶどう酒を生み出すでしょう――ローマ12:1．エペソ5:2．Ⅱコリント1:24：

ａ．わたしたちは自分自身の中では犠牲の生活を送ることはできません。なぜなら、わたしたちの命は天然の命、利己的な命であるからです。もしわたしたちが主と接触し、彼の犠牲の命を経験するなら、彼はわたしたちを力づけ増強して、神のためと他の人のために犠牲になるようにさせるでしょう――マタイ16:25．ヨハネ1:29．20:22．Ⅰコリント15:45後半．6:17．ピリピ4:13．ローマ12:1．エペソ5:2。

ｂ．わたしたちはキリストを犠牲の命を持つぶどうの木として経験すればするほど、ますます力づけられて自分自身を犠牲にして、神と他の人を幸いにします。そしてわたしたちは、わたしたちと接触する人たちに幸いをもたらし、神に活気をもたらすでしょう――Ⅱコリント1:24．5:13前半。

Ｂ．わたしたちは、キリストをぶどう酒を生み出すぶどうの木として経験することによ

って、また新しいぶどう酒としてのキリストで満たされることによって、彼の中でまた彼と共に注ぎのささげ物となって、神と人を活気づけることができます――創35:14．出29:40-41．ピリピ2:17．Ⅱテモテ4:6：

1．注ぎのささげ物は、キリストご自身を予表するだけではなく、キリストが新しいぶどう酒としてのご自身をもってわたしたちに浸透し、ついには彼とわたしたちが一になって、神の満足と神の建造のために注ぎ出されることをも予表します――マタイ9:17．Ⅱテモテ4:6．創35:14。

2．注ぎのささげ物は、わたしたちがキリストと一になることを経験することであり、ついには彼がわたしたちとなり、わたしたちが彼の犠牲の命において彼であるのと同じになることです――ピリピ2:17．Ⅱテモテ4:6。

Ⅱ．わたしたちがからだの中で犠牲の生活を送るとき、わたしたちはからだに命を供給します――Ⅰヨハネ5:16前半．ローマ8:2，6，10-11．エペソ4:16：

A．わたしたちが持っているものはすべて、からだの中に、からだを通して、からだのためにあります。こういうわけで、わたしたちの生活は、からだの中に、からだを通して、からだのためであるべきです――16節。

B．からだは肢体たちの相互の供給によって建造されます。神はあらゆる肢体を通してからだに命を伝達します――16節。

C．人は、キリストから受けたものだけをからだに供給することができます。わたしたちの務めの度量は、わたしたちの中のキリストの度量によって決まります――15-16節：

1．からだの中で有用なものは、わたしたちの中へと造り込まれたキリストだけであり、これだけが他の人に命の供給を与えることができます――3:16-17。

2．わたしたちがからだに供給するものはキリストであり、からだが受け入れるものはキリストです。なぜならからだの中で、キリストはすべてであり、すべての中におられるからです――コロサイ3:4，10-11，15-16。

3．わたしたちがかしらなるキリストから受けるものを、からだは自然に受け入れます。なぜなら、わたしたちのものはからだのものであり、それを努力して与えようとする必要はないからです――ヨハネ1:16．エペソ3:2．Ⅱコリント12:9．Ⅰコリント15:10。

D．十字架のある所に、命の務めがあります。用いられて命をからだに供給する道は、主と共にあるわたしたちの普段の生活において、十字架をわたしたちの中で働かせることです――Ⅱコリント4:10-12：

1．「死はわたしたちの中で働き、命はあなたがたの中で働く」ことは、からだの不変の原則です――12節。

2．神が十字架によってわたしたちに経過させるものは何であれ、自然に命の増し加わりをからだの中にもたらします。わたしたちが主と共にひそかに経過したものは、からだに命を供給するのに十分です――マタイ6:16-18．コロサイ3:3-4。

3．からだは命の交流によって供給されます。そして、死がわたしたちの中で働くと

き、命はからだに流れます――Ⅱコリント4:12。

E．わたしたちは内側の実際によって、命をキリストのからだに供給します。聖霊は真実で実際なものだけを証しします――ヨハネ16:13. Ⅰヨハネ5:6。

F．命の務めを通して、わたしたちはからだに仕え、からだの成長に貢献します。わたしたちが主から受けた命がからだの中へと流れ込むとき、からだの身の丈の度量が増し加わります――エペソ4:13-14。

Ⅲ．わたしたちはからだの成長のために、からだに命を供給する必要があります――コロサイ2:19. エペソ4:15-16：

A．神の意図は、キリストのからだの肢体たちが経路として用いてキリストの命をからだの中へと流れ込むようにし、彼らを通してからだの度量を増し加えることです――Ⅱコリント4:12. エペソ4:16。

B．からだの成長は、かしらとしてのキリストから出て来るものにかかっています――15-16節：

1．からだがかしらに結び付くことによって供給されるとき、からだは神の増し加わりによって成長します――コロサイ2:19。

2．からだはかしらから成長します。なぜなら、すべての供給はかしらから来るからです――エペソ4:15-16。

C．からだの成長は、わたしたちの内側で、神が増し加わること、神が加えられること、神が増加することにかかっています――コロサイ2:19：

1．神はご自身を主観的な方法でわたしたちに与えることによって、成長を与えます。

2．神がわたしたちの中へと加えられれば加えられるほど、神はますます多くの成長をわたしたちに与えます。このようにして、神は成長を与えるのです――Ⅰコリント3:6-7。

3．神だけが成長を与えることができます。神だけがわたしたちに彼ご自身を与えることができ、彼なしにわたしたちは成長を持つことができません――6-7節：

a．わたしたちの中へと神が加えられることが、神の与える成長です。

b．神がわたしたちに成長を与えることは、実は神がわたしたちにご自身を与えることを意味します――ローマ8:11。

D．からだの成長は、からだの建造です――エペソ4:16. コロサイ2:19：

1．エペソ第4章11節から16節は、新約の中で特別な地位を占めています。なぜなら、それはキリストのからだの建造に関する奥義を見せているからです。

2．キリストのからだの成長は、召会の中のキリストの増し加わりです。それは、からだ自身がからだを建て上げるという結果になります――16節前半. 3:17前半：

a．キリストが聖徒たちの中へと入り、彼らの内側で生きるとき、聖徒たちの内側のキリストは召会となります――コロサイ3:10-11。

b．キリストのからだは、わたしたちの内側のキリストの成長によって成長し、このように建造されます――1:18. 2:19。

務めからの抜粋：

注ぎのささげ物

注ぎのささげ物の種は、創世記第35章でまかれています。わたしたちはそれを理解しようとするなら、民数記第15章と第28章、ピリピ人への手紙第2章17節、テモテへの第二の手紙第4章6節を読まなければなりません。そうすれば、わたしたちはキリストを基本的なささげ物として神にささげるだけでなく、注ぎのささげ物としてもささげなければならないことを理解するでしょう。わたしたちはキリストを経験することによって喜びで満たされる必要があります。それは、わたしたちが神のためのぶどう酒となり、進んで神に対してキリストの上に注ぎのささげ物として注ぎ出されるためです。この経験は深く、実に主観的です。あなたは、「おお、父なる神よ、わたしはあなたに対してキリストの上に自分自身を注ぎのささげ物としてささげます」と言うかもしれません。あなたはこう言っても、もし喜びで満たされて天のぶどう酒で酔いしれるまでにキリストを経験していないなら、あなたにはその喜びはなく、進んで神に注ぎのささげ物として注ぎ出されようとすることはないでしょう。召会生活には、わたしたちが神聖なぶどう酒で浸透され、ぶどう酒とさえなるほどまでに、キリストを経験する可能性と潜在力があります。ああ、召会生活の中で、わたしは喜びで満たされており、進んで神の満足のために注ぎのささげ物としてキリストの上に注ぎ出されます。

神はぶどう酒を飲むことを享受されます。彼は、ぶどうからできたぶどう酒ではなく、キリストがわたしたちに浸透してできたぶどう酒を求めておられます。神はぶどうに関心がありません。神はキリストを持つあなたに関心があります。わたしたちはキリストの経験を通して、ぶどう酒にならなければなりません。わたしたちが神のぶどう酒になることができる唯一の場所は、召会の中です。召会の中でのあなたのキリストの経験は、あなたが天の喜びで満たされて、神聖なぶどう酒となり、神の満足のために進んでキリストの上に注ぎ出されるまでになることを、わたしはあなたに保証します。これがベテルにおけるイスラエルの反応です。わたしは、今後このような多くの反応が地方召会の中にあることを、完全に確信しています。多くの愛する聖徒たちはこう言うでしょう、「主よ、わたしはあなたの喜びであまりにも浸透されているので、酔いしれています。わたしは、わたしの神を満足させるぶどう酒になりました。今やわたしは進んで注ぎ出され、殉教にさえ至ります」。パウロが自分はすでに神の満足のために、キリストの上に注ぎ出されていると言ったことを思い出してください。召会生活の中で、わたしたちはみな天の喜びで浸透され、進んで自分を犠牲にし、神の満足のためにキリストの上に注ぎ出される用意ができていなければなりません。召会生活の中で、わたしたちはみな、注ぎのささげ物として進んで注ぎ出されるまでに、キリストを経験することができます。（創世記ライフスタディ、第79編）

ピリピ人への手紙第2章17節でパウロは言います、「しかしたとえ、あなたがたの信仰のいけにえと奉仕の上に、わたしが注ぎのささげ物として注がれるとしても、わたしは喜びます．またあなたがたすべてと共に喜びます」。テモテへの第二の手紙第4章6節でパウロはまた、彼自身が注ぎのささげ物であると言っています、「わたしはすでに注ぎ出され

ています。わたしの去る時は迫っています」。パウロがピリピ人への手紙で扱っているあらゆることは、キリストの経験に関してですから、第2章17節で言及している注ぎのささげ物も、そうであるに違いありません。もしわたしたちのキリストの経験が、わたしたちが注ぎのささげ物として構成される点に達していないなら、わたしたちはまだキリストを極みまで経験していません。キリストを極めて高い程度にまで経験する時、わたしたちは注ぎのささげ物となります。

注ぎのささげ物に構成される

注ぎのささげ物は、レビ記第1章から第7章で啓示された基本的なささげ物に付け加えられたものでした（民15:1-10，28:7-10）。基本的なささげ物は、キリストの各面の予表でした。注ぎのささげ物は、ささげた人が享受したキリストの予表であり、ささげる人を天のぶどう酒としてのキリストで満たして、その人を神へのぶどう酒とさえならせるささげ物でした。使徒パウロは、キリストをそのように享受することによって、そのような注ぎのささげ物となりました。それは、パウロが血を流すことを通して、神へのいけにえとして、信者たちの信仰の上に注がれることができるためでした。

全焼のささげ物、穀物のささげ物、平安のささげ物、罪のためのささげ物、違犯のためのささげ物は、基本的なささげ物でしたが、注ぎのささげ物は違いました。レビ記第1章から第7章で扱われた五つの基本的なささげ物は、キリストが神に対してわたしたちのために何であるかのさまざまな面の予表です。民数記第15章1節から10節と第28章7節から10節を読むなら、注ぎのささげ物は付け加えられたものであったことを見るでしょう。もし基本的なささげ物の一つが、注ぎのささげ物なしにささげられたなら、これは基本的なささげ物をささげることに、何かが欠けていたことを示しました。その基本的なささげ物をささげた人は、かなり貧しかったに違いありません。実は注ぎのささげ物は、ささげた人自身が注ぎのささげ物になることを表徴します。しかしながら、これは、ささげた人が自分の天然の構成にしたがって、そのような注ぎのささげ物となることができることを意味するのではありません。むしろ、彼は、キリストが彼を満たし、彼に浸透し、彼を飽和するまでに、キリストを享受しなければなりません。キリストはわたしたちの享受のための天的ぶどう酒です。わたしたちはキリストを内側に取り入れることによって彼を享受するとき、彼で満たされ、徹底的に彼で浸透されます。このようにしてわたしたちはぶどう酒となり、わたしたちが神にささげるささげ物の上に、注ぎのささげ物として注がれるでしょう。

旧約における予表を根拠に、パウロは自分自身を信者たちの信仰のいけにえと奉仕の上に注がれた注ぎのささげ物と考えるようになりました。何年もの間、パウロはキリストを飲み続け、享受し続けてきて、キリストで満たされ、彼で浸透される点に来ました。最終的に、天的ぶどう酒であるキリストは、パウロを彼の存在においてぶどう酒の構成とならせました。こういうわけで、パウロは自分自身を、彼が祭司として神にささげたいけにえの上に、注ぎのささげ物として注ぎ出されるぶどう酒であると考えることができたのです。（ピリピ人への手紙ライフスタディ、第14編）

命を供給する

今日、召会に対する神の最高の目的は、召会が命の務めによって愛の中で建造され、そのようにすべての事でキリストの中へと成長し込むことです。この事はエペソ人への手紙第4章において、召会の前に置かれている目標です。

コリント人への第二の手紙第4章で、キリストの死がどのようにして一つの所で（10節の「この体に」と12節の「わたしたちの中で」）働いて、主の復活を二つの所で（10節の「わたしたちの体に」と12節の「あなたがたの中で」）現させるかを、わたしたちはすでに見ました。ここに命の豊かさと務めの豊かさがあります。そしてもちろん、それらは究極的には一つであって、現される場所が違うだけです。最初の場合、命は死の働く所に現され、第二の場合は他の所に現されるのです。その現れがわたしの中にある時、わたしはそれを命と呼び、その現れが他の人の中にある時、わたしはそれを務めと呼びます。

十字架のない所には、命もありませんし、命の務めもありません。苦しみを受けるのは、豊かな満ち満ちた務めがそこにあるようになるためです。理論はこの事に置き代わることはありません。務めの貧しさは、容易な道を選ぶことから生じます。安易な時を過ごす者たちには、大抵、供給するものが全くないのです。彼らは人の必要がわからりません。わたしの言う意味は、苦労を求めたり、厳しく自分の体を虐待したりすることではありません。その霊ご自身がわたしたちのすべての経験の責任を取られます。そしてわたしたちの体、心、霊の各面において、わたしたちが「イエスの死」を経験するよう導き、わたしたちの務めが豊かになるようにさせます。わたしたちの責任はただ従うことだけです。

どのようにすれば神によって用いられて、からだに命を供給することができるようになるかと、あなたは問うかもしれません。それは、多くの事をするために綿密な計画を立てることではなく、また身を退けて何もしないということでもありません。あなたが主と共に歩む普段の生活で、ただ十字架を働かせることによるのです。ただ言葉やわざによって仕えている者たちは、いつか活動したり語ったりすることを余儀なくやめさせられると、彼らは自分には務めがないと思うのです。あなたの務めの度量は、あなたの活動する程度によって決まるのではありません。ただ「イエスの致死力」をあなたの中で働かせるなら、命は他の人の中にひとりでに現されます。他に方法はありません。なぜなら、「死はわたしたちの中で働き、命はあなたがたの中で働く」ことは、からだの不変の原則だからです。ですからあなたは、からだに命を増し加えようと特別に努力する必要はありません。なぜなら、神が十字架によってあなたに経過させるものは何であれ、自然に増し加わりをもたらすからです。

あなたは多く語る必要はありません。他の人を生かそうとして、あなたの死の経験を証しする必要もないのです。ただあなたが喜んで死のうとしさえすれば、他の人は命を知るのです。実際は、ひとりでに伝わるものです。それは人為的な交流にはよりません。わたしたちは「預言を軽んじてはいけません」（Ｉテサロニケ5:20）とあります。しかし、わたしたちは確信していますが、からだの中での務めは、ただ宣べ伝えや証しをすることだけではありません。わたしたちがひそかに主を経験していることは、キリストのからだに命を供給するのにかなり十分です。もしわたしたちが主のゆえに苦難に出遭うなら、わた

したちがその苦しみを語らなくても、その苦難が他の人たちに命を供給しているでしょう。それについて語るのは余計なことです。そればかりか、ある時はかえって忌まわしいことです。

もしあなたが一人の兄弟を赦したとすれば、あなたがその表現を持っていようといまいと、あなたの赦しの実際はからだに命を供給するのです（もちろんこのような場合、主はあなたにその表現を持つことを要求されるでしょう）。もしあなたが真に兄弟を愛するなら、あなたがどれほど彼を愛しているかを口にしなくても、その愛はからだを建造しているのです。わたしはかつて英国において、ある大きな集会で急に講壇に上がることになりました。そこには、日本人の兄弟が語り手の一人として招かれていました。わたしたちは以前に会ったことがないだけでなく、当時日中両国は戦争をしていました。わたしたちはほんの短い会話を交わす機会しかありませんでしたし、その兄弟の感覚がどうであったかわたしはわかりません。しかし、わたしは知っていますが、彼が語っている間、わたしは主にある兄弟の愛と交わりを感じました。この愛は、国籍の障害を超越した、言葉で解釈する必要のない愛です。

キリストのからだが供給を受けるのは、まず宣べ伝えや働きによってではなく、内側の実際によってです。聖霊は実際で真実なものに注意を払い、実際でないものを証しすることは決してありません。あなたがすでに召会にもたらしたキリストとキリストに属するものを、あなたは言葉で伝えるのです。なぜなら、わたしたちが言ったように、からだは命の交流によって供給されるからです。わたしたちの中に死が働く時、命は他の人にとても単純にそして自然に流れるのです。あなたがどれほど多くのことを行なったかや語ったかが問題ではなく、あなたがどれほど多く神の御手を経過しているかが問題なのです。

からだの一に基づかない務めは、真実のものではありません。あなたはその事実を見るまで、どのようにして機能したらよいのか、絶えず迷うでしょう。しかし、あなたはそれを見る時、あなたが何かを受けるなら、からだがすぐにそれを受け入れたことがわかります。あなたのものはからだのものであり、それを努力して与えようとする必要はありません。あなたは召会を建造したいと思っておられるでしょうか？　そうでしたら、まずあなたの内側を建造してもらいなさい。あなたがかしらから受けたものは、彼のからだである召会が自然に受けます。あなたが受けていないものを、からだがあなたを通して受け入れることは決してありません。受ける問題が解決すれば、務めの問題も解決します。そして受ける問題は、「イエスの死」によって解決するのです。（ウオッチマン・ニー全集、第40巻、第8章）